

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立川副中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<p>生徒・保護者・教職員のアンケート数値も高く、学校関係評価も高評価であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力向上においては、家庭学習の定着・習慣化が課題となった。家庭学習の充実及び基礎・基本の定着を図るとともに、「学び合い」を通して学力向上に取り組む。 校時間の見直しや業務の効率化を進めることで働き方改革を推進する。 生徒が夢や目標、志を持ち、その実現に向け意欲的に取り組もうとするための教育活動については、保護者と協力しながら進めていきたい。
---------------	--

2 学校教育目標	自分で考え判断し行動する、自律した生徒の育成
----------	------------------------

3 本年度の重点目標	<p>① 誰にとっても安全・安心で、居心地のよい学校</p> <p>② 確かな学力の育成</p> <p>③ 夢や目標をもち、チャレンジする生徒の育成</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目			最終評価				
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)		学校関係者評価	
				達成度	実施結果		
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践	○学力向上対策評価シートに示した成果指標を達成した教師75%以上 ○「学び合い」で全員が理解することができたと回答した生徒70%以上	・教科の特性に応じた「学び合い」を実施する。 ・効果的な「学び合い」を実施するために、課題設定を工夫する。	A	・教科の特性に応じた「学び合い」を実施した教師の割合は90%であった。 ・級友と一緒に練習したり、課題解決を行ったり、意見交流をしたりしたこと、学習内容がより分かるようになったと回答した生徒は95%であった。 ・「学び合い」を実施することで、生徒の主体的・対話的で深い学びにつながっている。特に下位層の生徒の学習意欲が向上した。今後も生徒が達成感を持てるような課題設定を行い、学習意欲の向上が学力につながるよう工夫する必要がある。	A	・授業における「学び合い」は重要であり、次年度も継続的に取組を進めてほしい。 ・「学び合い」の実践率が高い。先生たち同士の学び合いも行われ、研修の深まりを感じる。 ・学習内容が、より分かるようになった生徒の割合が高い。 ・結果を出すには、学習意欲の向上が重要である。 ・全員が意見を言える雰囲気ができているか。課題ごとに、輪番制でリーダーを交えるのも一案である。
	○学習意欲の向上・学習習慣の定着	○評価の観点である「主体的に学習に取り組む態度」のB以上が70%以上 ○1日当たりの家庭学習時間が2時間以上と回答したの生徒70%以上	・単元や内容のまとまりの中で適正な評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。 ・「学びの必要性」についての話や動機付けを行うとともに、具体的な支援を行う。	B	・生徒の92%が学習に関心をもち、様々な学習活動に熱心に取り組んでいると回答している。 ・1日当たりの家庭学習時間が2時間以上と回答した生徒は49%であったが、4月の全国学力・学習状況調査の結果と比較すると増加傾向にある。また、生徒の90%が自主学習ノートや教科の課題に確実に取り組むことができていると回答した。今後、課題の内容について工夫することで、家庭学習の時間がさらに増えることが期待される。	B	・家庭学習は、学校での学びの定着化（復習）と先取りの姿勢（予習）の習慣化に効果がある。家庭学習2時間以上が増えてきて、半分くらいにまでできているので、次年度も努力を継続してほしい。 ・スマホの使用時間は、全国的に3時間くらいと聞いている。スマホの影響が大きいと思う。 ・生徒の90%が、自主学習ノートや教科の課題に確実に取り組むことができている。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケート（「生命尊重」「他者への思いやり」「正義感」「郷土を愛する心」）において、肯定的な回答をした生徒70%以上	・1年生は存続士によるいじめ防止の授業を実施した。 ・人権集会や道徳に関するアンケートを実施する。 ・川副町出身の偉人の生き方を学ぶ地域教材の作成及び「ふるさとを思う心」に関する道徳教育を実施する。 ・地域と連携した校外でのボランティア活動を実施する。	A	・生徒の90%以上が「相手の立場や気持ちを考え行動している」「日ごろから正しいと思う行動をしている」「自他の命を大切にしている」「地域や学校のよさや魅力を誇り、大切にしたい」と回答しており、生命尊重や正義感などの基本的な道徳意識が日常生活においとおおね醸成されている。	A	・他者への「思いやり」「正義感」は、人としての存立基盤であり、具体的な取組を継続してほしい。歴史館も協力したい。 ・心の教育が、様々な取組を通して実践されていてほしい。また、様々な人たちの体験を通じた取組が行われ、90%以上の生徒の心が豊かになっている。 ・人として重要な部分について、90%の生徒が心掛けていることに感心した。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○校内生徒指導体制を整え、関係生徒及び保護者に計画的かつ組織的な関わりをもつ。 ○生活アンケートやいじめアンケートを毎月実施し、生徒現状を把握し、早期発見・早期対応につなげる。 ○安心して生活できる学年・学級だと感じる生徒90%以上	・いじめが疑われる事案を知った場合に、すぐに管理職に報告し、組織的な対応を行う。 ・再発防止と被害者の支援・加害者の指導等、学校全体による取組を実施する。 ・職員の見守り意識の高揚を図り、未然防止に努める。	A	・担任、学年職員、管理職を含めて、保護者や生徒と良好な関係を築くことができている。 ・毎月生活アンケートを実施し、早期対応に努めることができた。また、重大事案はほとんどなかった。 ・情報モラル教育を毎月実施し、SNSを介したいじめについても、指導することができた。 ・学校評価では、保護者89%、生徒96%が安心して生活できていると回答した。	A	・学校の努力に敬意を表します。 ・生徒が先生たちに相談しやすく、良好な関係づくりができている。また、未然防止や早期発見に努力されていて、生徒・保護者ともに安心して生活できている。 ・ネットでのいじめや拡散がないよう、繰り返し指導をお願いしたい。 ・生徒や保護者に真剣に寄り添う姿勢が強く感じられる。大変ありがたい。 ・安心して生活できるという項目について、生徒の数値目標は100%にすべきだと思う。
	●生徒が夢や目標、志をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標、志をもっている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等を実施する。 ・マナー検定を実施し、夢や目標をもたせる。 ・が朝構想との連携を通してキャリア教育を充実させ、将来への夢をもたせる。	・職業人講話や職場見学など、地域や外部機関とも連携しながら各学年でキャリア教育を行い、将来について考える機会を設定した。また、各学年でマナー検定を実施し、現在の夢や目標について自分の言葉で語る場を設けた。 ・「将来の夢や目標、志をもっている」について、肯定的な回答をした生徒は74%であった。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」について肯定的な回答をした生徒は93%であった。	A	・職業人講話や職場見学など、地域や外部機関とも連携しながら各学年でキャリア教育を行い、将来について考える機会を設定した。また、各学年でマナー検定を実施し、現在の夢や目標について自分の言葉で語る場を設けた。 ・「将来の夢や目標、志をもっている」について、肯定的な回答をした生徒は74%であった。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」について肯定的な回答をした生徒は93%であった。	A
●健康・体づくり	○運動習慣の改善や定着化	○週3回以上、30分以上の運動をしている生徒70%以上	・保健だよりや体育の授業等で、「運動の効果」や「運動の楽しさ」等を紹介し、実践を促す。	A	・週3回以上、30分以上の運動をしている生徒は79%であった。 ・生徒の重大交通事故は「0」であった。 ・各学年や学年層下に自転車ルールのポスターを貼り、周知を図った。 ・生徒会や生徒指導部と連携し、交通ルールやマナーの遵守について意識を高めさせるよう指導を行った。	A	・健康は一生のものなので、健康教育をこれからも続けてもらいたい。 ・4月から交通ルールに対する処罰（特に自転車）が改正されるので、周知とともに安全運転の徹底をお願いしたい。
	○安全に関する資質・能力の育成	●生徒の重大交通事故を「0」にする。 ○交通ルールを守って生活している生徒80%以上	・全校集会や総合学習を通して安全への意識を高める。 ・外部講師による講話等を実施する。	A	・全校集会や総合学習を通して安全への意識を高める。 ・外部講師による講話等を実施する。	A	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・出勤時刻の入力により時間の管理に対する意識を高め、マネジメント力の向上を促す。 ・部活動に係る基本方針に沿った活動を行うとともに、適切に休業日を設定する。 ・定時運動日を設定し、推進を図る。 ・アプリを活用し、出欠確認に係る業務の効率化を図る。 ・年休取得推進日及び週間を設定する。	A	・「勤務時間や教育委員会規則にある時間外在校時間の遵守を意欲した業務改善ができた。」と回答した職員は95%であった。 ・職員の平均年次休暇取得日は15日となり、昨年度より3日増えた。年次休暇取得目標の提示や、取得奨励日の導入により、積極的に年次休暇を取得しながら、タイムマネジメントやライフワークバランスを意欲した働き方ができている職員が増えた。	A	・先生方の心と身体の健康が保たれていくのが、とても大切なことと思う。生徒たちと笑顔で心を通わせていただけたら、先生たちのご健康を心より願っています。 ・教職希望者を増やすためにも、組織でルール化し、実践していき取り組みを今後続けてもらいたい。
	○障害ある生徒の教育的ニーズの把握と適切な支援のための体制整備	○困り感のある生徒に対して、個に応じた適切な支援ができていると回答した生徒・保護者・教員の割合が90%以上	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有を確実に行う。 ・保護者との連携を図り、生徒への支援の充実させる。	・困り感のある生徒に対して、個に応じた適切な支援ができていると回答した生徒の割合は94%、保護者の割合は83%であった。 ・生徒の困り感を把握し、組織的に個に応じた指導を進めていることが結果につながったと考える。	A	・困り感のある生徒に対して、個に応じた適切な支援ができていると回答した生徒の割合は94%、保護者の割合は83%であった。 ・生徒の困り感を把握し、組織的に個に応じた指導を進めていることが結果につながったと考える。	A

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			最終評価				
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)		学校関係者評価	
				達成度	実施結果		
○魅力ある学校づくり	○教育相談の充実、居場所づくり、学習の機会の提供	○自分には心の居場所があると感じる生徒の割合80%以上	・教育相談期間を設定し、教育相談活動を充実させる。 ・SCや学習支援員等との連携を通して、個々の生徒に対する支援の充実を図る。 ・学校医、SSF等の関係機関及びUSO・SSW等と連携し、不登校生徒を支援する。 ・家庭訪問による支援を行う。 ・家庭及び別室におけるオンライン授業を実施する。	A	・「自分には心の居場所があると感じるか」について、肯定的な回答をした生徒の割合は94%であった。生徒からの悩みや不安等の訴えがあれば、早急かつ組織的に対応していることが結果につながったと考える。 ・不登校生徒について個性を尊重し、適切に外部機関と連携を図ることができた。	A	・心の叫びを親身になって受け止めてくれる大人が身近にいるという安心感が生徒にあるのと思う。「早急かつ組織的に」は大切だと思う。 ・自宅でのリモート授業を受けられるようになり、よかったと思う。 ・心の居場所作りなど、不登校生と大切に育ててくれているので、これからも続けていきたい。 ・心のケアが行き届いている。
	○人間関係づくり コミュニケーション能力の育成	○安心して生活できる学年・学級だと感じる生徒90%以上 ○QUテストにおける学級満足度の割合60%以上	・SSEやグループエンカウンター等を実施し、学級活動の充実と望ましい人間関係づくりの育成を図る。 ・QUテストを参考にし、人間関係の把握・支援及び学級集団のモラル向上の推進を図る。	A	・QUテストにおいて、学級満足度の割合は1回目は60%、2回目は63%であった。1回目のQUテストの結果を学年で共有し、対策を講じた結果だと考える。今後QUテストを参考にし、人間関係づくりを支援し、学級活動を充実させていなければならない。 ・授業や学級活動行事などを通してよい人間関係を築くことができ安心して生活ができるようになったか」について、94%の生徒が肯定的な回答をした。	A	・本音をベースに対話ができる関係性の構築が大切だと思う。 ・安心して生活できていると94%というすばらしい。 ・QUテストは有料であるが、1回目・2回目共に実施されており、変化や向上を把握することができ、生徒にとってよいことだと思う。
	○学校生活の向上(あいさつ・ルール・マナーに関する意識の向上) ○校内の環境整備・美化	○場に合ったあいさつができる生徒90%以上 ○自問清掃検定の合格率80%以上	・生徒会等による啓発活動や生活アンケートの実施等を通して、生徒の意識の向上を図る。 ・生活目標を活用し、学級指導を充実させる。 ・校内の清潔な環境維持についての指導を充実させる。	・「ルールやマナーを守り、場に応じた挨拶をすることができたか。」について、肯定的な回答をした生徒の割合は99%であった。 ・日々の清掃活動において、生徒は効率よく、協力して掃除をしており、自問清掃検定においても全員合格することができた。	A	・99%の生徒が挨拶ができていることや、自問清掃の状況などとても素晴らしい。 ・学校がとてもきれいでいる。 ・挨拶や清掃が十分にできており、生徒の心も豊かに磨かれていっている。	

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…果共通 ○…学校独自 ●…志と誇りを高める教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者・教職員へのアンケートにおいて、各項目において肯定的な回答をした人の割合が高く、目標達成に向けた取組について一定の成果が出ていると考えられる。 ・安心して学校生活を送ることができている生徒の割合が高いが、今後も継続して、授業や行事、生徒会活動を通して生徒の主体性を育てる取組や心の教育、また、問題の未然防止や早期発見に向けた取組を行っていく必要がある。 ・学力向上においては、今後も継続して、生徒の主体性と創造性を育み、学習意欲を高める授業づくりや、家庭学習の充実・習慣化に取り組む必要がある。 ・生徒が夢や目標、志をもち、その実現に向けて主体的に考え、周囲としっかりと関わりながら物事に取り組もうとするための教育活動を、保護者・地域と協力しながら進めていきたい。
----------------	---